

平成24年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	13	政策名	生涯学習・文化・スポーツの振興			
施策コード	3	施策名	スポーツ振興			
幹事部局コード	3	幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当	スポーツ振興課 競技・生涯スポーツ班	
評価者・実施日	1次評価(観光文化スポーツ部長)		平成24年7月31日			

1 施策の方向性(必要性と目的)

スポーツが生活の一部となる生涯スポーツ社会の実現に向け、基盤となる学校体育を充実させることにより、運動好きな子ども、運動の得意な子どもの育成を図る。
 いつでも誰でもスポーツに親しむことのできる機会の創出や、総合型地域スポーツクラブの設置を支援し、地域住民の健康増進を図る。
 県民に夢と感動を与える国際大会、国体等での秋田県選手の活躍を支える競技力の維持・向上を図る。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	全国平均より優れている新体カテスト項目数の割合(年間)(%)	17.3	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	H21実績値 80.4%
		H12	実績値	75.5	70			
		—	達成率	107.9%	99.4%			
②	総合型地域スポーツクラブ設置市町村数(累計)	11	目標値	25	25	25	25	H21実績値 23市町村
		H11	実績値	25	25			
		—	達成率	100.0%	100.0%			
③	国体天皇杯順位	22	目標値	10位台	10位台	10位台	10位台	H21実績値 30位
		H11	実績値	28	19			
			達成率	—	—			
達成度		—						

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

① 児童生徒の体力向上

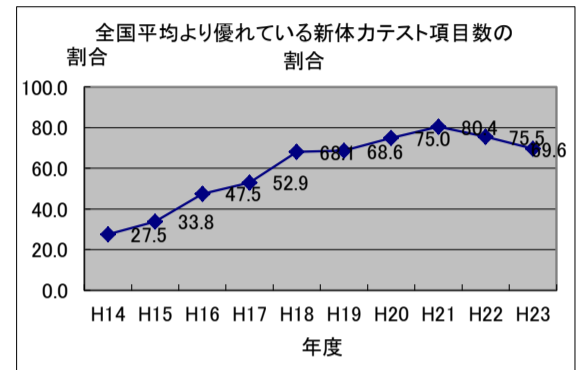
■ 取組内容

- 各学校へ新体力テスト結果データの情報提供、各学校への「県学校体育・健康教育資料集」での情報提供及び実践事例の紹介
- 「小・中・高等学校学校体育担当者連絡協議会」における焦点化した体力向上の「課題、取組、指導法」に関する共通理解の促進
- 「体育学習テクニカルサポート事業」「保健体育課学校訪問」等の各種事業施策を活用した授業改善の啓発

■ 取組の成果

○小・中・高等学校学校体育担当者連絡協議会では、本県の課題の一つである走力について、「立ち方、歩き方、走り方～走に関する指導の工夫について～」をテーマとしてシンポジウムを行ったことで、各学校の児童生徒の走力の向上を図るという課題解決につながる手立てについて共通理解を得ることができた。また、シンポジウムでの内容が各学校での指導面に反映し授業改善につながることを期待できる。

○体育学習テクニカルサポート事業及び保健体育課学校訪問事業に申請した学校等に対しては、「秋田県学校教育の指針」に示してある「教科指導の重点」等に基づき助言をすることで、授業の単元計画や指導の手立てが、より効果的なものとなり、児童生徒の関心・意欲面や技能面において変容が見られた。



■ 課題と今後の推進方向

- 事業や協議会における助言などにより、授業改善等が見られた学校においては、新体力テストの結果の変容にもつながるよう、より具体的な助言内容とするなど、検討・対応していきたい。

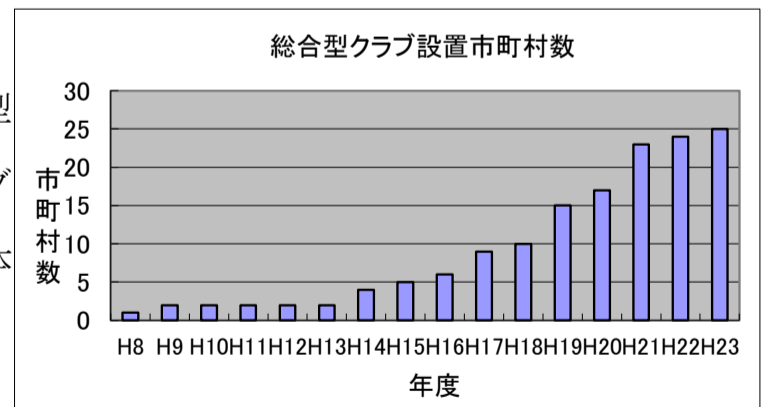
② 生涯スポーツの振興・スポーツ人口の裾野の拡大

■ 取組内容

- 県広域スポーツセンターと秋田県体育協会が連携し、総合型地域スポーツクラブ育成支援事業の実施
 - ・総合型地域スポーツクラブ未設置地区（旧市町村）に対して、啓発訪問の実施と啓発セミナーの開催
 - ・設立済みの総合型地域スポーツクラブの課題解決や活性化に向けた育成支援訪問の実施
 - ・クラブマネジャー養成講習会とマネジメントスキルアップ研修会の開催
 - ・指導者派遣事業の実施
 - ・総合型クラブを核とした地域活性化モデル事業の実施

■ 取組の成果

- 平成23年度末には、25市町村全ての市町村において総合型クラブが設立となっている。
- 平成24年7月1日現在の総合型クラブ設立数は、55クラブとなっており、更に11のクラブが設立準備を進めている。
- 旧市町村で総合型クラブ未設置の地区を中心に、秋田県体育協会総合型クラブ育成アドバイザーと連携を図りながら、啓発フォーラムを開催している



○市町村に少なくとも1つは総合型クラブを設置するという目標は達成している。しかし、設立済みのクラブにおいて会員数が減少したり、財源の確保に苦慮しているクラブが依然として見られる。そこで、今後も設立済みクラブの活性化に向けた支援や、総合型クラブが地域における「新しい公共」として住民サービスを担い、事業を展開できるように市町村への働きかけを行っていく必要がある。

○総合型クラブへの支援ばかりではなく、生涯スポーツ振興を総合的に推進するために、秋田県スポーツ科学センターに整備した、秋田県広域スポーツセンター設置要綱に基づき、機能拡充に向けた事務・事業の充実を図っていく。

③競技スポーツの振興

■取組内容

○スポーツ王国づくり強化事業において、指導体制の確立や選手の育成強化、スポーツ医科学の充実等を行っている。

○アスリート輩出のための発掘モデル事業において、ジュニア期から優れた素質を有する選手の発掘・育成を行っている。

■取組の成果

○平成19年度の秋田国体後、主力選手の引退や県外への流出にともなう成績の低下が見られるが、「育てながら勝つ」を強化の基本方針に捉え、小・中・高校生の一貫指導体制の構築や競技力に見合った更なる重点配分等を考慮した効果的運用を進めることにより、競技力の向上が図られた。

○強化拠点校(高等学校:16競技、のべ24校)を指定し、集中した強化を図ることにより、競技力の向上が図られた。

○秋田県中学生強化選手(143名)を指定し、フィジカル及びメンタル強化のための研修を行った。

○フェンシングに特化した「AKITAスーパーわか杉っ子発掘プロジェクト」において、9名のタレントに育成プログラムを実施し、また、オーディションにより新たに3名の選手が選抜された。また、運動塾をイメージした「ジュニアチャレンジスクール」を実施し、36名の小学3・4年生が参加した。

■課題と今後の推進方向

○指導者の育成と、選手の強化を推進しながら、「育てながら勝つ」を基本方針に捉えた一貫指導体制の構築と共に、トップアスリートを育成し、引退後は秋田で指導者として活躍する循環型の競技力向上システムを構築する必要がある。

○秋田県では、フェンシングに特化したアスリート輩出のための発掘・育成事業を推進しているが、他競技への拡充を図り、ジュニア期からの一貫指導体制の構築を図る必要がある。

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況 ○施策目標が3本あるが、それぞれの取組は着実に推進しており、一定の進捗が見られる。①については、「小・中・高等学校体育担当者連絡協議会」で焦点化した体力向上の「課題・取組・指導法」に関する共通理解が図られ、授業改善につながった。②については、平成22年度末までに25市町村全ての市町村において総合型クラブが設立した。③については、強化拠点校(高等学校16競技:のべ20校)を指定し、集中した強化を図ることにより、競技力の向上が図られた。
概ね順調	●課題と今後の推進方向 ○①については、事業や協議会における指導により、各学校とも授業改善を図ってきている。今後このことが新体力テストの結果の変容にもつながるよう、さらに具体的な助言内容とするなど検討・対応していきたい。②については、設立済みのクラブの活性化に向けた支援や新たな事業を展開できるように市町村に働きかけていく必要がある。③については、トップアスリートを育成し、引退後は指導者として活躍できる循環型の競技力向上システムを構築する必要がある。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況
	●課題と今後の推進方向

4 評価結果の反映状況等(対応方針)

--

5 政策評価委員会の意見

--